

第105回役員会議事要録

日時：平成30年8月23日(木)10:00～

会場：大学本館E-703会議室

出席者：津田理事長、松尾副理事長、清田理事、片山理事、柳井理事、梶原理事、田上理事
(オブザーバー) 中野監事、福田監事、二宮副学長、中尾副学長

議案

- 1 ブレーマーハーフェン大学との大学間協定の締結について
- 2 教員の公的研究費不正事案に係る弁済の確認書締結について
- 3 実験施設の設置に伴う共同所有権取得について

報告

- 1 法人評価委員会の評価結果について
- 2 SDGs について

議案1 ブレーマーハーフェン大学との大学間協定の締結について

<質疑応答>

[理事]

○市からの依頼により締結にすることになったのか。

[副学長]

○大学が積極的に締結に向けて取り組んできたものである。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案2 教員の公的研究費不正事案に係る弁済の確認書締結について

<質疑応答>

[理事]

○思いのほか件数や金額が多いようだが、横領が始まったのは随分と前からなのか。また、これまでに気付くことのできるタイミングがなかったのか。

[理事]

○平成25年に着任して以降の当該教員の支払いについて全件確認を行ったところ、着任当時から不正が行われていた。

[理事]

○5年間にも及ぶのか。

[理事]

○そうである。監査については、全件ではないが毎年度抽出して現物確認を実施していたが、その時点では、同じ型の備品を用意して監査をくぐり抜けており、発見できなかった。

[理事]

○備品の保管状況については、自己申告だけでなく、現物監査も定期的に行っているのか。

[理事]

○現物監査は実施しているが、全件ではなく抽出して検査を行っていた。

[理事]

○不正が行われた期間的が長く、件数的にも多いので、監査の実施方法など次の再発防止も含めて検討いただきたい。

[理事長]

○今の意見は、特に再発防止についての質問だったと受け止め、再発防止の検討の際に考慮をお願いする。

[監事]

○確認書について、本件事案に公的研究費で購入して売却された備品以外の付随する損害が含まれていないように受け取れるが、その他の損害を担保しておかなくて大丈夫か。

[理事]

○確認書の5項でカバーしようとしているが、それでは含まれないか。

[監事]

○付随する損害発生の可能性があるのであれば、そこまでのカバーはできていない。損害の対象事案の定義をもう少し大きくした方がよいだろう。

[理事]

○弁護士とその部分も協議して整えたいと思う。

【議長】 只今の意見を踏まえて修正するというので、承認いただいてよろしいか。

【委員】 異議なし

議案3 実験施設の設置に伴う共同所有権取得について

<質疑応答>

[理事]

○共同所有そのものについて異議はないが、施設を設置して経過観察をすることで工法開発をするのが目的か。共同研究の成果物についての権利はどうなっているのか。

[理事]

○共同研究については、別途共同研究の契約を締結しており、その中で知的財産権の取り扱いなども含め取り決めている。

[監事]

○共同研究が終了した後の撤去費用はどうなるのか。

[理事]

○20年から30年は使用できる建物なので、本学が所有した場合は、本学の負担で撤去することになる。

[監事]

○撤去費用を見込んでも価値があるということか。

[理事]

○国際環境工学部では、研究室のスペースが不足してきている。今回設置する施設を区切って使えば、沢山の教員がシェアして使用することができるので、我々としても大変ありがたいと考えている。

【議長】 提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】 異議なし

報告1 法人評価委員会の評価結果について

<質疑応答>

[理事]

○評価のためのマンパワーや作業時間がかかっているのではないか。評価を受けるのが目標になっているのではないかという心配になる。

[理事長]

○高い評価を得ているということは、実績を出しているということ。評価自体にマンパワーがかかっているのか。

[副学長]

○かかっている

[理事]

○このパワーを学生のきめ細やかな支援等に回せるのではないかとも思う。

[副理事長]

○国立大学の法人評価はもっと簡素である。公立大学は負荷が大きいと思う。公立大学協会も何とかしたいと考えているところで、法人評価の結果と認証評価の結果をうまくつなげられないかと検討しているところである。

[理事長]

○それは誰がどこに働きかけたらよいのか。

[副理事長]

○公立大学全体が抱えている問題なので、公立大学協会が研究センターを作っており、本学の前学長もメンバーに入っている。

[理事長]

○何かあればサポートをする。

報告2 SDGs について

<質疑応答>

[理事]

○せっかく取り組むのなら、SDGs に取り組んだら何が変わるのかということを明確に打ち出していくと、皆さんが動かれるのではないかという印象を受けた。

[報告者]

○高校のカリキュラムが変わってきて、アクティブラーニング等実践的な探求の学びが増えてきており、そういう高校生が大学を目指してくる。指摘いただいた通り、SDGs を身につけた学生がどういう学生像なのかということを明示する必要があると思っている。